

ストで「働き方改革」粉碎を

改憲・核戦争、福島圧殺へ突き進む安倍打倒しよう

労組先頭に 3・11 郡山-3・25 日比谷へ

安倍政権が裁量労働制を導入するために用いた厚生労働省のデータが、事実に基づかないねつ造だったことが暴露されました。ところが安倍首相は再調査を拒否し、あくまで「働き方改革」関連 8 法案の一括成立を狙っています。絶対に許せません！ 今こそ渦巻く怒りを結集する時です。3 月 J R のダイヤ改定阻止決戦、J R 常磐線全線開通阻止・被曝労働拒否の闘いへの職場からの決起、三里塚 3 月決戦、3・11 反原発福島行動（郡山市）と星野文昭同志を取り戻す闘い。それらすべての力を首都に結集して、3・25 大行進 in H I B I Y A を大成功させ、朝鮮核戦争を止めましょう。労働組合の組織的参加をかちとりましょう！

朝鮮戦争狙い訓練が激化

連日のオリンピック報道の裏で朝鮮核戦争の準備が進められています。3 月 27 日に予定する陸上自衛隊水陸機動団（日本版海兵隊）の創設に向け、1 月 13 日から陸自と米軍が米カリフォルニア州で共同訓練をしています。航空自衛隊は宮崎県の新田原（にゅうたばる）で米軍と共同訓練を行い、仙台市上空に輸送機オスプレイを飛行させての共同訓練も 3 月まで続きます。そうした中で 2 月 20 日、青森県の米軍三沢基地所属の戦闘機 F 16 が離陸直後に出火、墜落は避けられたものの燃料タンク 2 本（約 4 5 0 0 リットル）を、シジミ漁船約百隻が操業中

おがわら こ とう か
の小川原湖に投下しました。

ひと けん りくかいくう じ えいたい べいよんぐん りくかいくうぐん かいへいたい お
一つの県に陸海空の自衛隊と米 4 軍（陸海空軍と海兵隊）のすべてが置かれて
おきなわけん あおもりけん さいしんえい せんとう き みさわ くう じ き ち
いるのは沖縄県と青森県だけです。最新鋭ステルス戦闘機 F 35 も三沢の空自基地
はい び なか こんかい しゅつ か じ こ お だい くうぐんだい せんとうこうくうだん ち じょうこうげき
に配備中です。今回の 出 火事故を起こした第 5 空軍第 35 戦闘航空団は地上攻撃
とつ か ちょうせんかくせんそう だい こうげきたい べいだい くうぐん ねんちょうせんせんそう じ
に特化した 朝鮮核戦争の第 1 攻撃隊です。米第 5 空軍は 50 ～ 53 年 朝鮮戦争時
べいぐんしゅりょく ご かくこうげきくんれん かさ
の米軍主力で、その後も核攻撃訓練を重ねてきました。

なか かんこく せんよん む こくぼうしょう がつ はつ か べいかんごうどうぐん じ
こうした中で韓国のソンヨム（宋永武）国防相は 2 月 20 日、米韓合同軍事
えんしゅう じっし じ き びよんちゃん がつ にち へいまく あと がつ
演習の実施時期について、平昌パラリンピックが 3 月 18 日に閉幕した後、4 月
はい まえ べいこくぼうちようかん はつびょう の
に入る前にマティス米国防長官とともに発表すると述べました。

せんそうせつぱくじょうせい たいけつ かんこく じんしゅろうそう がつ にじゅうよつか ろうどうしゃたいかい
この戦争切迫情勢と対決して、韓国・民主労総は 3 月 2 4 日に労働者大会を
おこな けってい じんしゅろうそう せんとう かくめい しょく ぼ かくめい
行うことを決定しました。民主労総を先頭とした「ろうそく革命から 職 場革命
へ」「2 0 0 万人の組織化とゼネストへ」の闘いと連帯し、日本の労働者が戦争
と たたか た あ と き
を止める 闘いに立ち上がる時です。

ふくしまげんぼつ じ こ ねん むか がつ にち こおりやまし おこな はんげんぼつ
福島原発事故から 7 年を迎える 3 月 11 日、郡山市で行われる 3・11 反原発
ふくしまこうどう ぜんこく あつ へんげんぼつ せい じょうじゅう し みずしゅう じ よ
福島行動に全国から集まりましょう。福島大名誉教授・清水修二らが呼びかけ
がつ にち けんみんだいしゅうかい ひ ぼく き かん きょうせい あ べ せいけん いったい か
る 3 月 17 日の「県民大集会」は、被曝と帰還を強制する安倍政権と一体化し
ふくしま あんぜん せんてん へんげんぼつ いか たたか あっさつ
て「福島はもう安全」と宣伝し、福島の怒りと闘いを圧殺しようとするどんで
ぼうきょ さくどう う やぶ かく げんぼつ ひ ぼく き かん きょうせい ゆる
もない暴挙です。この策動を打ち破り、核・原発と被曝・帰還の強制を許さな
たたか
い闘いをつくりだしましょう。

さいりょうろうどうせい どうにゅう そ し
裁量労働制の導入阻止を

あ べ せいけん いま ろうどうほうせいはいあく いそ かくめい げんじつせい
安倍政権が今、労働法制改悪を急いでいるのは、革命の現実性におびえている

からです。

第2次大戦終結直後に爆発した戦後革命の闘いは、1945年10月に早くも始まった読売争議に典型的なように、全国の労働者が自分の職場から陸続と決起し、45年12月22日には労働組合法を成立・公布させました。こうして組織を拡大した労働組合の闘いは、47年2・1ゼネストをめざす中で革命の目前まで迫りますが、占領軍の恫喝に屈した日本共産党の裏切りでゼネストは中止されました。しかしこの闘いの力が根底にあって、翌3月に教育基本法施行、4月労働基準法公布をへて、5月3日に現憲法施行へ至るのです。

安倍が今国会に提出しようとしている「働き方改革」関連8法案は、①労働基準法、②雇用対策法、③労働者派遣法、④パートタイム労働法、⑤労働安全衛生法、⑥労働時間等設定改善特別措置法、⑦じん肺法、⑧労働契約法の8法を一括して改悪するものです。

その内容は、例えば労働基準法の第4章で定める労働時間（時間外規制）、休憩、休日及び深夜の割増賃金に関する規定をすべて適用しないという大改悪（残業代ゼロ）。また雇用対策法の目的を「労働者の職業の安定」から「労働生産性の向上等を促進すること」へと書き換え、労働者をフリーランス（個人事業主）化して労働3権の適用外に置くものです。

政府は2月6日の閣議で、裁量労働制について「契約社員や最低賃金で働く労働者にも適用が可能」とする答弁書を決定しました。三沢基地のある青森県の最低賃金は738円。盆と正月も返上して週40時間働いても年収153万円です（東京でも最低賃金は958円）。さらに奨学金返済、国保税、年金保険料や消費税が襲いかかります。こうして労働者を生活できない状態にして基地や原発を押し付けるのです。こんな構造を全部吹き飛ばすために、職場や

ちいき しゅんとう た あ
地域から 18 春闘に立ち上がりましょう。

こうしたろうどうしゃ い たたか なか ほしのふみあきどうし だっかん たたか
こうした労働者の生きるための闘いの中でこそ、星野文昭同志奪還の闘いが
けっていきき じゅうよう せいふ ねん けいほう かいあく ゆうきけい じょうげん ねん
決定的に重要です。政府は 2004 年に刑法を改悪し有期刑の上限を 20 年か
ら 30 年に引き上げました。こうしてほうりつ しゅうしんけい か すす むじゅん
ら、09 年 3 月、法務省は「受刑開始から 30 年が経過した場合、刑務所長の申し出
ねん がつ ほうむしゅう じゅけいかいし ねん けいか ぼあい けいむしよ もうで
がなくても地方更生保護委員会は仮釈放の審理を開始する」との通達を出しま
ちほうこうせいほ ごいんかい かりしゃくほう しんり かいし つうたつ だ
した。この「30 年問題」の背景には、刑務官が受刑者にリンチを加え虐殺した 01 年
ねんもんだい はいけい けいむかん じゅけいしゃ くわ ぎやくさつ ねん
の名古屋刑務所事件を始めとした、刑務当局による受刑者への組織的な暴行・
なごやけいむしよじけん はじ けいむとうきよく じゅけいしゃ そしきてき ほうこう
虐殺事件への広範な怒りがあります。

ほしのふみあきどうし だっかん たかまつだいこうどう む ぜんこく かいがてん ひら しこくこう
星野文昭同志奪還へ、6・3 高松大行動に向けて全国で絵画展を開き、四国更
せいほ ごいんかい ようぼうしよ あつ
生保護委員会への要望書を集めましょう。

ぜんしん ひろ きよてん
『前進』広め拠点つくろう

べいにちていこくしゅぎ せんそう つ すす じょうせい なか だい じ せ かいたいせん か かくめい
米日帝国主義が戦争に突き進む情勢の中で、第 1 次世界大戦下でロシア革命
しょうり みちび まな たたか ろうどうくみあい がくせい じ ち かい きよてんけんせつ
を勝利に導いたレーニンに学び、①闘う労働組合・学生自治会の拠点建設、
こくさいれんたいどうそう せんじか だんあつ かけ ひごうほう ひこうぜんたいせい も かくめいどう
②国際連帯闘争、③戦時下の弾圧をはね返す非合法・非公然体制を持った革命党
けんせつ みつ せんじょう たたか なに もと ひ
の建設という三つの戦場で闘うことが何よりも求められています。とりわけ非
ごうほう ひこうぜん かくめいどうけんせつ せんそうはんたい つらぬ ろうどうくみあい たたか どだい
合法・非公然の革命党建設は、戦争反対を貫き、労働組合がゼネストで闘う土台
です。

せんぜん にほん ねん せんかんはる な きょうさんとうさいぼう そしき
戦前の日本でも、1932 年に戦艦榛名（はるな）に共産党細胞が組織され、
きかんし あかはた たいないしんぶん そび どくしゃ そしき
機関紙『赤旗』と隊内新聞『聳（そび）ゆるマスト』の読者が組織されました。
へいし まも くれかいぐんこうしょう まん ろうどうしゃ じよ
その兵士たちを守ったのは呉海軍工廠（こうしょう）2 万の労働者やバスの女

性労働者、街の女給たちでした。兵士を組織できる非合法・非公然体制で労働運動を取り組んだからこそ、さらに工場内新聞『うなるクレーン』1千部のほか、『軍需列車』『学生仲間』『煙る港』などが発行され、豊かな労働運動が広がったのです。32年の一斉弾圧の後も軍隊内での組織化は続き、戦艦長門や戦艦山城に広がりました。

戦前の労働組合員数や農村の小作争議数のピークは36～37年です。日本共産党の壊滅と総転向の後もこの実力がありません。日本共産党最高幹部の佐野学・鍋山貞親の獄中転向（33年6月）を転機とした党指導部の屈服と総崩れがなければ日本階級闘争は違う道を歩んだに違いありません。

こうした労働者人民の闘いの歴史を引き継ぎ、「世界戦争を世界革命へ」の現代革命に挑戦しているのは革共同であり、労働者の新聞『前進』です。職場で『前進』を広め、闘う労働組合の拠点建設を推進しましょう。それが改憲と戦争を止める力です。